

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

血液がん患者の安全を守る ～無菌治療室の必要性と当院の対応～

療養生活を明るく支えます



2023.11 Vol.54

- ① 中村統括副院長挨拶 2024年施行 医師の働き方改革
- ② ③ ④ 特集 血液がん患者の安全を守る～無菌治療室の必要性と当院の対応～
- ⑤ 看護部通信 患者さんと共に考える『アピアランスケア』
- ⑥ 地域医療連携ニュース 地域医療支援病院運営委員会が開催されました / 院長だより
- ⑦ インフォメーション 画像診断報告書対策チーム設立 / 院内保育園改修 / 快適で安全な保育を / 広報番組放送予定 / 編集後記
外来診察担当医表(別紙)

医師の働き方改革

勤怠管理システムの導入と現況

2024年4月から遂に勤務医の働き方改革が本番を迎えます。当院は、2022年12月に医療機関勤務環境評価センターへの申請を終え、2023年1月からビーコンによる勤怠管理の導入を始めました。医師の働き方改革で、最も対応に苦慮しているのがこの勤怠管理ではないでしょうか。どのシステムを使うのか?宿日直許可は?自己研鑽か?時間外勤務か?どう決断しても、異論噴出が予想されます。

様々な勤怠管理システムの中から、コスト・将来的な有益性等を鑑みてDr.JOYを導入しました。この勤怠管理システムの作成に岡山大学医学部の関与があることや、大学病院を始め多くの総合病院で導入が始まっていたことも決断の大きな要因でした。使用方法に関する説明会では、案の定、様々なネガティブ意見のオンパレードでした。「仕事が増える!」「入力が複雑で面倒くさい!」。また、これまで用いていた紙ベースによる時間外勤務の報告も継続する(当面は紙ベースで時間外勤務手当の計算を行う、そしてその申告時間とビーコンによる申告時間の比較を行う)事にも大きな反対の声が上がりました。

まずはトライ期間として、1~3月までの使用状況を見て2023年度中にビーコン管理に移行する計画を立てました。結果は散々でした。これを受け、4月の新規入職医師のオリエンテーションでビーコンによる勤怠管理を教え、その後、診療科毎にPC版&スマート版での具体的な入力方法を教授して、十分な理解の後使用を促しました。この後、毎月の紙ベース値とビーコン入力値との差がほぼ無くなつたことから、9月からは遂にDr.JOY単独による勤怠管理へと移行しています。

あらためて組織の中に新しいことを導入する事の大変さを思い知らされました。当院は様々な意見が噴出しながらも、「やれば出来る」病院です。これから年度末まで毎月の状況を見つつ、気になる数値には注意して、2024年4月に備えたいと思っています。

LEADER's / INTERVIEW

中村 康彦
統括副院長

出退勤データが自動で反映されます(Dr. JOY)

Beacon信号
レシーバー 出勤 08:54

Beacon信号
レシーバー 退勤 19:24

出勤 退勤 滞在 超過

08:54 19:24 10:30 01:30 自動計算

その日最初に検知した時刻

その日最後に検知した時刻

受信機が時刻を把握して
クラウドにデータを送信

クラウドから医師の勤怠画面に
出退勤時刻を反映

受信機からのデータを
受信機が反応

医師が持ち歩く発信機 病院に置く受信機 医師の勤怠画面

提供画像:Dr.JOY 株式会社

特集 | 血液がん患者の安全を守る ~無菌治療室の必要性と当院の対応~

血液内科の扱う疾患

血液内科では、貧血や血小板減少症といった血球減少をきたす疾患や血液悪性疾患だけでなく、血液凝固異常症など、血液に関わる異常にについて広く診療に取り組んでおります。また、エイズ診療拠点病院としてHIV感染症の診療にも従事しています。さらに、2013年にマダニ媒介性ウイルス出血熱である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の日本で初めての患者を発見した経緯から、SFTSの診療と研究にも力を入れており、国内で中心的な役割を担っています。当院は、日本血液学会認定血液専門医・指導医を含む4名の診療スタッフと高度な診療設備を擁する県内有数の血液疾患診療施設です。防府・山口医療圏を中心に県内外から患者を受け入れており、「確かなエビデンスに基づいた標準的治療を提供すること」を第一にして、最先端の新しい治療も提供できるよう常に心掛けています。

血液がんの診療

多彩な血液疾患の中でも、とりわけ白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群といった血液がんは、高齢化に伴って患者数がますます増加していて、血液がんの治療は血液内科診療の柱のひとつになっています。血液がんには昔から「不治の病」というイメージがつきまとってきた。しかし、今の時代においては、これらは決して治らない病気ではありません。化学療法や同種造血幹細胞移植療法(いわゆる骨髄移植や臍帯血移植)を中心とした従来からの治療に加え、分子標的薬剤や抗体医薬といった新規治療薬やCAR-T療法といった細胞免疫療法なども次々と開発されており、よりよい寛解や治癒をめざした治療ができるようになってきています。



カンファレンスの様子

特集 | 血液がん患者の安全を守る ~無菌治療室の必要性と当院の対応~



無菌治療室の増床

急性白血病や悪性リンパ腫の治癒を得るには化学療法の実施が欠かせません。一部の血液がんには、自家末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法(通常量の数倍以上の抗腫瘍薬を用いた化学療法)が有用なこともあります。血液がんに対する化学療法レジメンは治療強度が高く、治療に伴う骨髄抑制はとても高度です。こういった化学療法を安全に行うには骨髄抑制期に合併しやすい感染症を予防することが重要であり、そのために無菌治療室(クリーンルーム)が整備されています。

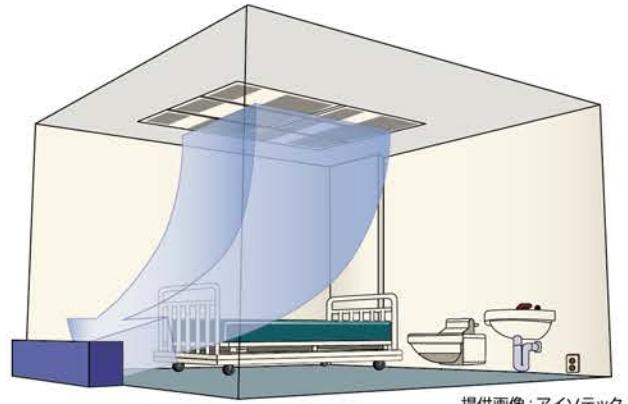
無菌治療室は、HEPAフィルターを使用した特殊な空調設備で清浄な空気を循環させている部屋です。無菌治療室の使用で呼吸器感染症(主にアスペルギルス感染症)の合併リスクが低減します。

当院にはもともと4床の無菌治療室が備えていましたが、2013年の増床改修で6床となり、さらに高まるニーズに応えるために今年度の病棟改修で8床に増床されました。これによって、より多くの患者さんに安全な治療を提供できる環境が整うことになりました



無菌治療室天井のHEPAフィルター

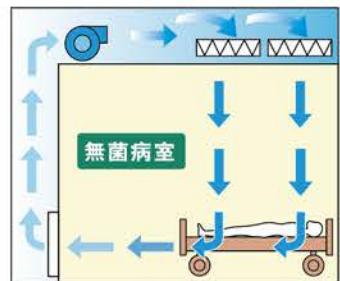
垂直層流型 無菌治療室 MIU-401の構造



提供画像:アイソテック

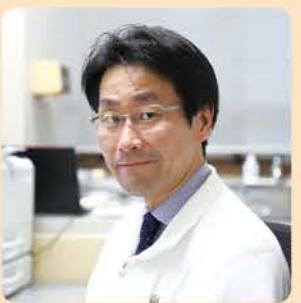
間口3.5m未満の個室スペースにも設置できる、垂直層流型の無菌治療室です。室内を広く使え、患者へのアクセスが360度可能です。

垂直層流によって、病室ベットは常にクラス1000が保たれます。



外来化学療法室での治療

近年、なるべく自宅での生活を送りながら外来通院で抗がん化学療法を行いたいという要望が増えてきました。血液疾患においても、自宅での健康管理や通院に支障がなければ、通院化学療法は可能です。当院は化学療法専用の外来治療室も完備しており、専任の化学療法認定看護師を中心としたチームが対応しています。治療時間を利用して、看護師や専任薬剤師が療養生活の指導を細やかに行って、患者さんが安心した療養ができるよう支援しています。



血液内科診療部長
高橋 徹
(たかはし とおる)

これからの血液がん治療に思うこと

B細胞性リンパ腫に対するリツキシマブは抗体医薬療法の先駆けとなり、慢性骨髄性白血病に対するイマチニブから分子標的療法の時代が到来しました。血液がん治療の分野には、治療法のパラダイムシフトをもたらす先端的かつ画期的な薬剤が今後もいち早く導入されてくるでしょう。山口県の診療レベルを高く維持するよう、進取の姿勢で診療に取り組んでいきたいと思っております。

【専門分野】 血液疾患全般 / 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

【資 格】 日本血液学会認定血液専門医・指導医
日本内科学会 総合内科専門医・認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

学会認定・自己血輸血責任医師
日本内科学会中国支部評議員
日本血液学会評議員

Message
～メッセージ～

患者さんの病棟生活を支える スタッフたち



医師



看護師



薬剤師



理学療法士



臨床心理士

看護部
通信

『Appearance care』
considered
together with patients.



患者さんと共に考える『アピアランスケア』

7階北病棟 がん看護専門看護師 内田 恵



がん看護専門看護師の認定資格を取得してから5年が経ちました。現在、私は病棟に所属し、週に一度病棟から離れて活動をしています。当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、その役割の一つに「がん患者さんに対する相談支援および情報提供」があります。私はその役割の中でも乳がん患者さんに対する「アピアランスケア」に関する相談支援を行なっています。治療によって生じてしまう外見の変化に対して支援を行うことを「アピアランスケア」と言います。第三期がん対策推進基本計画の内容にはじめて「アピアランスケア」の課題が取り上げられ、患者さんの生活の質の向上のために医療者が外見の問題を適切に支援することの重要性が明記されました。

治療により乳房を失ってしまうこと、形が変わってしまうことで、自分の性に対する考え方に対する影響が生じることがあります。この自分の性に対する考え方女性だけではなく、男性においても同様のことと言えます。術後にお話しを伺うと「まだ自分の胸を見ることができません」「女性として大切な何かをなくしてしまった気持ちです」「乳がんは女性がなる病気だと思っていたのに男の自分が乳がんだと言われ信じられなかった。周りにならなかなか言えなかった」など体験をした人でしかわからぬ

い苦悩や葛藤があるのだということを、患者さんの語りの中で痛感します。アピアランスケアは、外見を「補う」のではなく、その人らしい生活により近づけるための支援です。このアピアランスケアの関わりをきっかけに、病気に対する精神的苦痛を吐露される患者さんが多くおられます。このことからも、アピアランスケアはただの情報提供の場ではなく、患者さんの情緒的支援に繋がる場にもなっていると感じます。今後も、アピアランスケアを通じて、身体的にも精神的にも自分らしく過ごすということはどういうことなのかを、患者さんと共に考えていきたいと思っています。



地域医療連携 NEWS

開催日
2023年
9月28日木

地域医療支援病院 運営委員会が 開催されました!!

2023年9月28日に地域医療支援病院運営委員会が行われ、山口県や防府市、山口市近隣医師会に向けて地域医療連携に関する業務や実績の報告が行われました。患者支援連携センターからは以下のような報告を行っています。

・医療機器の共同利用報告

- CT、MRIの利用は、前年度とほぼ同数の利用率で推移しています。
- 半導体PET/CTは、本年8月から試験運用を開始し、10月から一般運用を開始します。
- 検査予約の空き状況について、防府市・山口市の連携医療機関に週1回情報提供を行っています。



・地域医療従事者研修実施報告

- 2022年度は13回の研修を実施し、合計721名（うち院外から267名）の参加がありました。
- 感染症対策のため、オンデマンドやオンライン研修も組み合わせて実施しています。

・患者支援連携センターの活動報告

- 現在、当院の患者相談窓口には、看護師5名、医療ソーシャルワーカー10名、公認心理師1名、保健師1名が配置されています。
- 2022年7月のてんかん支援拠点病院の指定に伴い、てんかん診療支援コーディネーターによる相談業務を開始しました。本年9月までに23件の相談対応を行っています。
- 2023年8月より、がん遺伝子検査外来受付を開始しました。
- 医療相談業務では、前年度と比較して「病院・施設や在宅への転院・退院支援」「医師等への情報提供」が多くなっています。



院長 だより

2023年も残すところ2か月をきり、自然界では動物たちの冬眠期が近づいてきました。今年はがん診療の質の高さを維持していく基盤を構築すべく、念願であった半導体PET/CTとダヴィンチの導入を行いました。現在、設定した目標数値に向かい、現場のスタッフのみなさんが粉骨碎身日々努力をしてくれていることに、院長として本当に感謝しています。さらに来年春には、腫瘍センターを開設し、がん薬物療法の品質管理の精度向上を推進します。2024年が良き年であることを願っています。



武藤 正彦



○画像診断報告書対策チーム設立

医療安全の一環として、画像診断報告書・病理診断報告書の確認漏れによる診断および治療開始の遅れを防止する対策チームを設立しました。当院は診療放射線技師をリーダーとして医師、看護師、臨床検査技師で構成しており、報告書管理を目的とした院内研修を年に1回、報告書管理の評価に係るカンファレンスを月に1回開催しております。

また、既読管理システム(CITA)の導入により、電子カルテシステムログイン時に画像診断報告書が確定してから一定の期間を経過すると、既読を促すメッセージが表示され報告書の確認漏れを防止するとともに、管理者は確認状況を把握できるようになりました。これにより医療安全、質の向上に寄与するものと思います。

○院内保育園改修！快適で安全な保育を

当院では、職員の子育て支援と人材確保のために、院内保育園を設置しています。現在の場所に移転してから40年以上が経過し、老朽化への対応を行うとともに、保育環境の向上、保育内容の充実を目的として、外壁及び内装の改修工事、新遊具を設置するなどの整備を行いました。2023年3月に改修工事完成式を行い、また同年9月にはピアノ贈呈式を行いました、園児をはじめご家族(職員)や保育園職員にも大変喜んでいただいております。

今後も、職員が安心して働けるように、院内保育園をはじめとした様々な福利厚生制度を整備してまいりたいと思います。



院内保育園ピアノ贈呈式



改修後の保育園外観

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)



放送日時	放送内容	出演
12月2日(土) 18:55～19:00	ロボット支援手術による前立腺がん治療	泌尿器科 松本 洋明 医師
12月6日(水) 16:00頃～	子どもに安全で優しい医療をめざして	小児外科 金川 勉 医師
1月6日(土) 18:55～19:00		
1月10日(水) 16:00頃～		
2月3日(土) 18:55～19:00	安心して臨める人工ひざ関節置換術	整形外科 吉田 純二 医師
2月7日(水) 16:00頃～		

編集後記



内科について特集しました。とりわけ無菌治療室での入院は、外界と隔離された生活をしなければなりません。そのため、精神的なストレスも大きくなりますので、患者さんやそのご家族にとって大きな負担となります。その中で医師をはじめ多くの職種が支えとなって共に治療していく状況や雰囲気を感じていただければ幸いです。(総務課Y.N.)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

地方独立行政法人
山口県立病院機構

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymghp.jp/>